

		<p>る。</p> <p>※パウムテスト、カラーテスト実施</p>	<p>気になれない。</p> <p>○暴力をふるいたくなる時、学校に行けない時の気持ちを受容する。</p>
(3) 本人 (4)		<p>○前回来所した後の本人の行動をきく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緊張がとれないためかアイチック状のまばたきや目を閉じて話すという状態が続く。 <p>○祖父、弟に対して暴力をふるう回数は減らない。</p> <p>○自分の部屋にベットとテレビのビデオ装置を買うことを要求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビデオ装置を要求どおり購入した。 <p>○母親自身がどのように本人に接してきたかについてきき出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登校さえすれば暴力はふるわないはずだから何とか登校させたい。 • 自分の家の中で暴力をふるう子がいては、使用人もおり世間体が悪い。 <p>○調査、検査結果から診断及び今後の方針について話す。</p>	<p>○なぜ暴力をふるうのかといった面を考えるゆとりがなく、表出した微候の除去策にだけ目がむいていることを気づかせる。</p> <p>○養育過程で本人が持ち、感じている心理的な外傷経験をいやすことから解決を図る必要があることを知らせる。</p> <p>○エゴグラム、親子関係診断テストの解釈結果を知らせ、親自身の問題点を認識させる。</p>